

# PHIL HAR MONY

January 2021  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

# 感染症予防対策についての取り組み

---

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、  
以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため、休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 当日は極力接触を避けるため、会場内での当日券販売、チケットの当日精算は行いません。必ず事前に発券されたチケットをお持ちの上、ご来場ください。  
また、お連れ様のチケットをお預かりすることもできませんので、あらかじめご了承ください。
- 当日、チケット半券のもぎりは、係員の確認後、お客様ご自身でお願いいたします。  
また、プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。

- 
- 喫茶コーナーは休止しております。
  - 会場内での食事は控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
  - NHKホールの喫煙コーナーは休止しております。
  - クロークは休止しております。
  - ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
  - 会場内での他の公演のチケット販売は行いません。またCD等の販売もございません。
  - NHKホールでの公演について、終演後に運行していた渋谷駅行きの臨時バスは、3密（密閉・密集・密接）防止の観点から運休となります。

- 
- 公演により座席数を制限している場合があります。
  - 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
  - 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の流れ替えに努めます。
  - スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
  - 厚生労働省による「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」の活用を推奨いたします。

# Philharmony

CONTENTS  
JANUARY 2021

# 1

- 3 [公演プログラム] **NHKホール** | 1月16日、17日
- 9 [公演プログラム] **東京芸術劇場** | 1月22日、23日
- 15 [公演プログラム] **サントリーホール** | 1月27日、28日
- 19 [シリーズ] **N響百年史** | 第16回 | 山田耕筰、ハルビンへ旅立つ 片山杜秀
- 24 NHK交響楽団メンバー
- 25 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members
- 26 特別支援・特別協力・賛助会員
- 31 Information / 2020-21シーズン公演日程 / 2021年2月公演日程&プログラム
- 32 2021-22定期公演予定(日程・指揮者)
- 表3 役員等・団友

## お客様へのお願い



公演中は携帯電話、  
時計のアラーム等は  
必ずお切りください



演奏は最後の余韻まで  
お楽しみください



場内での録画、録音、  
写真撮影は固くお断り  
いたします



私語、パンフレットを  
めくる音など、  
物音が出ないように  
ご配慮ください



演奏中の入退場は  
ご遠慮ください



補聴器が  
正しく装着されているか  
ご確認ください

# Special Thanks



## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

東日本旅客鉄道株式会社

MIZUHO みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

East Japan Railway Company

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて

©Lukas Beck

1/16 **土** 6:00pm  
1/17 **日** 3:00pm

# NHKホール

**NHK Hall**

January

16(Sat) 6:00pm

17(Sun) 3:00pm

指揮	ファンホ・メナ Juanjo Mena, conductor
ピアノ	ハビエル・ペリアネス* Javier Perianes, piano*
コンサートマスター	白井 圭 Kei Shirai, concertmaster

ピエルネ  
「ラムンチョ」序曲 [9']

ファリャ  
交響的印象「スペインの庭の夜」\* [23']  
I ヘネラリーフェで  
II はらかな踊り  
III コルドバの山の庭で

— 休憩 (20分) —

ヒナステラ  
バレエ組曲「パナンビ」作品1a [13']

I パラナの月光  
II 力の精たちへの呪文  
III 乙女たちの悲しみ  
IV 大地の祭  
V 乙女たちの Rondó  
VI 戦士たちの踊り

Gabriel Pierné (1863–1937)  
“Ramuntcho,” incidental music  
– Overture

Manuel de Falla (1876–1946)  
“Noches en los jardines de  
España,” impresiones sinfónicas\*  
I En el Generalife  
II Danza lejana  
III En los jardines de la Sierra de Córdoba

— intermission (20 minutes) —

Alberto Ginastera (1916–1983)  
“Panambi,” ballet suite Op. 1a

I Claro de luna sobre el Paraná  
II Invocación a los espíritus poderosos  
III Lamento de las doncellas  
IV Fiesta indígena  
V Ronda de las doncellas  
VI Danza de los guerreros

## ラヴェル

## 「ダフニスとクロエ」組曲

## 第1番 [12']

- I 夜想曲
- II 間奏曲
- III 戦いの踊り

## 第2番 [18']

- I 夜明け
- II 無言劇
- III 全員の踊り

## Maurice Ravel (1875–1937)

## “Daphnis et Chloé,”

## Suite No. 1

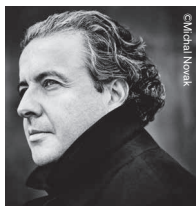
- I Nocturne
- II Interlude
- III Danse guerrière

## Suite No. 2

- I Lever du jour
- II Pantomime
- III Danse générale

## Artist Profiles

## ファンホ・メナ (指揮)



スペインとフランスを跨いで位置し、独自の文化を育むバスク地方。その中心都市のひとつ、スペイン側のビトリア・ガステイスに生まれる。地元の音楽院で学んだ後、マドリード王立音楽院でエンリケ・ガルシア・アセンシオに指揮を師事。卒業後ドイツに渡り、セルジュ・チェリビダッケから8年間にわたり薫陶くんとうを受けた。1999年、バスク地方を代表するオーケストラ、ビルバオ交響楽団の首席指揮者兼芸術監督

に就任。以後ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ劇場およびノルウェーのベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、マンチェスターのBBCフィルハーモニック首席指揮者を歴任する。2017年からシンシナティ5月合唱祭の首席指揮者を務めている。またベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、シカゴ交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、クレーヴランド管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、フィラデルフィア管弦楽団など世界各地の著名オーケストラにも客演を重ねている。N響との初共演は2017年1月の定期公演。ファリャ、ロドリゴ、そしてドビュッシーと、スペインとフランスにちなんだプログラムで好評を博した。今回2度目の共演。

## ハビエル・ペリアネス(ピアノ)



©IGORSTUDIO

スペイン南西部、アンダルシア州ネルバに生まれる。2012年、スペイン文化省より国民音楽賞を授与され、2019年には国際クラシック音楽賞の「アーティスト・オブ・ジ・イヤー」に選ばれるなど、現代スペインを代表するピアニストのひとりとして知られる。第42回ハエン賞国際ピアノ・コンクール、第8回ゲレロ財団国際ピアノ・コンクール、第14回ヴィアナ・ダ・モッタ国際コンクールで優勝するなど、数々の入賞歴を誇る。これまでにウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、シカゴ交響楽団など、著名なオーケストラと共演。レパートリーはベートーヴェン、ショパン、ドビュッシーなどから、ブラスコ・デ・ネブラ、モンボウ、ファリヤなどの自国スペインの作品まで多岐にわたる。またリサイタルや室内楽にも熱心に取り組み、ヴィオラのタバア・ツィンマーマンやキログ四重奏団とは定期的に活動を重ねている。N響との共演は今回が初めて。

### Program Notes | 伊藤制子

20世紀初頭のパリは、さまざまな国から芸術家たちが集う国際都市であった。禁酒法に懲りて自由な都市の空気をもとめてきたアメリカ人、そしてヨーロッパ各地からも芸術家、音楽家たちがやってきて、独特の空気をもたらした。ガブリエル・ピエルネ(1863~1937)、マヌエル・デ・ファリヤ(1876~1946)、モーリス・ラヴェル(1875~1937)——本日の公演でとりあげられる作曲家たちは、この芸術都市パリの中で出会った面々である。アルゼンチン生まれのアルベルト・ヒナステラ(1916~1983)の音楽にも、この時期のフランス近代音楽のかすかな残響を聴き取ることができる。

### ピエルネ

## 「ラムンチョ」序曲

ガブリエル・ピエルネの名前は、作曲家としてよりも指揮者としてのほうが知られているかもしれない。パリ音楽院で作曲を学び、ローマ賞を受賞。作曲家として嘱望されるが、1910年からコロヌ管弦楽団の首席指揮者に就任し、多くのフランス音楽の演奏に携わることになる。とりわけドビュッシーの数々の作品を初演した指揮者として、その存在は当時の楽界でも一目置かれることとなった。

《ラムンチョ》は1908年にパリのオデオン座で上演されたピエール・ロティの劇の付随音楽として作曲された。舞台はバスク地方で、伝統的球技に興じる場面や自然の情景が盛り込まれるなど地方色豊かな物語。密輸団に身を投じた青年ラムンチョのかわ

ぬ愛が描かれる。許嫁の純朴な娘<sup>いいなずけ</sup>グラシューズ(愛称ガチューチャ)と3年の兵役後の結婚を約束するが、戻ってみると彼女は修道女となり変わり果てていた。ラムンチョはアメリカに発つため別れを告げるのである。原作はすでに1924年に『ラマンチョオ』(和田傳訳)として邦訳されており、はやくからわが国で紹介されていたことがうかがえる。ピエルネは付随音楽を2つの組曲にまとめた版も作成した。本日演奏される序曲は、バスク地方の民謡にしばしば見られる5拍子舞曲が含まれた一曲である。

作曲年代	1908年完成
初演	1908年、パリのオデオン座
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、シンバル、大太鼓、トライアングル、小太鼓、タンブリン、カステネット、ハープ2、弦楽

## ファリャ

### 交響的印象「スペインの庭の夜」

ピエルネ、ラヴェルが活動していたパリにはさまざまな国籍の音楽家たちが集ったが、スペイン楽界からも主要な音楽家が訪れていた。そのひとりが、マヌエル・デ・ファリャである。ファリャは1910年頃、パリで同郷のピアニストのリカルド・ビニェスに献呈するためにソロ作品を構想していたが、最終的には、オーケストラとピアノのための作品として完成させた。1916年にスペインで行われた初演はビニェスではなく、ホセ・クビレスがソロを担当した。

この作品を献呈され、フランス初演を手がけたビニェスは、ラヴェルと同時期にパリ音楽院で学んだピアニストで、多くのラヴェル作品を初演したことで知られる名奏者。ビニェスがスペイン作品やドビュッシーを1929年から1939年に録音した歴史的ディスクを聞くと、高度な技術をもっていたことが推察されるが、例えばファリャの《火祭りの踊り》の演奏は民族色や妙技を強調しすぎることなく、格調高さが際立つのも印象的だ。《スペインの庭の夜》はピアノのソロがオーケストラの響きの中に溶け込み、スペイン情緒あふれる音楽になっている。

全体は、3つの曲からなり、第2曲と第3曲は続けて演奏される。古都アルハンブラの宮殿隣の庭園が舞台の〈ヘネラリーフェ〉では、オーケストラに続き、神秘的なピアノ・ソロが始まる。第2曲は、ギターをつま弾くようなピアノ・パッセージが出てくる〈はるかな踊り〉。そしてピアノ・ソロの急速な動きが先導する第3曲〈コルドバの山の庭〉へ。コルドバはアンダルシア地方の古都である。フリギアなど教会旋法風の音階がフラメンコを彷彿させるリズムなどと巧みに組み合わせられ、典雅な中にも独特の情感をもたらしている。



作曲年代	1910年頃～1916年
初演	1916年4月9日、マドリード・レアル劇場、ホセ・クビレス独奏、フェルナンデス・アルボス指揮
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、シンバル、サスペンデッド・シンバル、トライアングル、ハーブ1、チェレスタ1、弦楽、ピアノ・ソロ

## ヒナステラ

### バレエ組曲「パナンビ」作品1a

アルゼンチンのブエノスアイレス生まれのアルベルト・ヒナステラは音楽的な家庭に生まれたわけではないが、7歳から本格的レッスンを受け、12歳からは生地のウィリアム音楽院で学び、作曲専攻を優秀な成績で卒業した。1936年にブエノスアイレス国立音楽院に入学し、音楽院在学中に作曲されたのがバレエ音楽《パナンビ》で、初演はコロソ劇場で1937年に行われた。躍動するリズムと輝かしい色彩に満ちた音楽は初演時から高い評価を受け、ヒナステラの出世作となり、続くバレエの名作《エスタンシア》にもつながった。

物語は、南アメリカの伝説にもとづく。パナンビとはパラナ川流域に暮らす部族の首長の娘。勇壮な戦士ギラウと婚約しているが、結婚直前に、水の精霊によってギラウがさらわれてしまう。パナンビに横恋慕しつつも拒絶された魔法使いが、パナンビに、婚約者を探すために川へ身を投じるよういうが、そこに善の神チューバが現れ、魔法使いを罰し、醜い黒鳥に変身させる。ギラウは救われ、愛する2人は抱き合うのである。

本日演奏されるのは、6曲の組曲版。全体は必ずしもバレエ版に沿って展開するわけではなく、各場面の印象的な舞曲などを自由に抜粋してつなげたものになっている。まずファゴットとコントラファゴットの低音で始まる〈パラナの月光〉に続き、〈力の精たちへの呪文〉では打楽器群のリズミカルな音楽が支配している。リリカルな〈乙女たちの悲しみ〉が終わると、土俗的な〈大地の祭〉、〈乙女たちのロンド〉といった起伏豊かな舞曲の音楽になる。ティンパニの連打音が導く〈戦士たちの踊り〉では、ストラヴィンスキーやバルトークを彷彿させるエネルギーが炸裂する。

作曲年代	1937年完成
初演	[組曲版] 1937年11月27日、ブエノスアイレス、コロソ劇場、ファン・ホセ・カストロ指揮、コロソ劇場管弦楽団 [バレエ版] 1940年7月12日、ブエノスアイレス、コロソ劇場
楽器編成	フルート4(ピッコロ2)、オーボエ3、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット4(Esクラリネット1、バス・クラリネット1)、ファゴット4(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、クラベス、トライアングル、タンブリン、サスペンデッド・シンバル、タムタム、シロフォン、カホン、ハーブ2、チェレスタ1、ピアノ1、弦楽

ラヴェル

## 「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番

ファリャやアルベニスのようなスペインの音楽家たちがパリに集った一方で、20世紀初頭のパリを席卷したロシア・バレエ団の存在も忘れるわけにはいかない。希代の才能をもった興行主ディアギレフは、若く才能のある作曲家に次々と新作を依頼し、音楽界の話題をさらったのである。モーリス・ラヴェルのオーケストラ作品中もっともきらびやかな響きに彩られた《ダフニスとクロエ》は、ロシア・バレエ団からの委嘱作品だった。ラヴェルは引き受けたものの、レスボス島で展開するギリシャ神話の解釈などについて意見の違いから、創作の筆はしめりがちであった。

1910年のピアノ版に続き、1912年にバレエ全曲版が仕上がったが、組曲化も同時に進められ、組曲第1番は1911年に、組曲第2番は1913年に完成された。さまざまな版のうち、最初に初演されたのが第1組曲で、1911年4月2日、ピエルネ指揮、コロナ管弦楽団の演奏会だった。バレエ版はその翌年に初演され、ダフニスをヴァーツラフ・ニジンスキー、クロエをタマラ・カルザヴィナというロシア・バレエ団のスターが演じたが、終曲の5拍子にダンサーたちは苦労したとも伝えられている。

組曲第1番は、海賊の来襲でクロエをさらわれたダフニス<sup>ダフニス</sup>が祈りを捧げる〈夜想曲〉で始まる。続いて〈間奏曲〉では海賊の声<sup>きこ</sup>が聞こえてくる。そして〈戦いの踊り〉は、海賊たちのダイナミックな音楽である。組曲第2番は、引き裂かれていたダフニスとクロエが再会する〈夜明け〉の描写から始まる。続く〈無言劇〉はダフニスの求愛のダンスで、フルート・ソロによって先導されて、パン(牧神)とシランクス(妖精)の物語を踊る。そして最後の〈全員の踊り〉は5拍子によるめくるめくフィナーレになる。

作曲年代	[第1組曲] 1911年完成 [第2組曲] 1913年完成
初演	[第1組曲] 1911年4月2日、ピエルネ指揮、コロナ管弦楽団 [第2組曲] 不明
楽器編成	フルート3(ピッコロ2)、アルト・フルート1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、小太鼓、中太鼓、トライアングル、タンブリン、タムタム、アンティークシンバル、ウィンドマシーン、サスペンデッド・シンバル、カ斯塔ネット、ハーブ2、チェレスタ1、ジュドゥ・タンブル1、弦楽

伊藤制子 | Seiko Ito

音楽評論家。おもな研究領域は、音楽美学、現代音楽研究。東邦音楽大学講師。

1/22 **金** 7:00pm  
1/23 **土** 2:00pm

# 東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre

January

22(Fri) 7:00pm

23(Sat) 2:00pm

指揮

沼尻竜典

Ryusuke Numajiri, conductor

ヴァイオリン

辻 彩奈\*

Ayana Tsuji, violin\*

コンサートマスター

白井 圭

Kei Shirai, concertmaster

ラヴェル

組曲「クープレンの墓」[17']

- I 前奏曲
- II フォルラーヌ
- III メヌエット
- IV リゴードン

ショーン

詩曲 作品25\*[16']

ラヴェル

チガーヌ\*[10']

— 休憩 (20分) —

ラヴェル

亡き王女のためのパヴァーヌ[6']

Maurice Ravel (1875–1937)

“Le tombeau de Couperin,” suite

- I Prélude
- II Forlane
- III Menuet
- IV Rigaudon

Ernest Chausson (1855–1899)

Poème Op. 25\*

Maurice Ravel

Tzigane\*

— intermission (20 minutes) —

Maurice Ravel

Pavane pour une Infante défunte

## ラヴェル

## バレエ音楽「マ・メール・ロフ」(全曲)

[29']

前奏曲

[第1場] 紡ぎ車の踊りと情景

[第2場] 眠りの森の美女のパヴァーヌ

間奏曲

[第3場] 美女と野獣の対話

間奏曲

[第4場] 一寸法師

間奏曲

[第5場] パゴダの女王レドロネット

間奏曲

終曲:妖精の園

## Maurice Ravel

## "Ma mère l'Oye," ballet

Prélude

Tableau I: Danse du rouet et scène

Tableau II: Pavane de la belle au bois  
dormant

Interlude

Tableau III: Les entretiens de la belle et de la  
bête

Interlude

Tableau IV: Petit Poucet

Interlude

Tableau V: Laideronette, impératrice des  
pagodes

Interlude

Apothéose: Le jardin féerique

## Artist Profiles

## 沼尻竜典 (指揮)



東京都出身。ベルリン芸術大学に留学中の1990年、若手指揮者の登竜門として知られるブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。以後ロンドン交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団など世界各国のオーケストラに客演を重ねる。国内では新星日本交響楽団および東京フィルハーモニー交響楽団正指揮者、名古屋フィルハーモニー交響楽団常任指揮者、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者、群馬交響楽団首席指揮者兼芸術アドバイザー、日本センチュリー交響楽団首席客演指揮者などの要職を歴任する一方、1995年にトウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア (旧トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ) を結成し、音楽監督として室内オーケストラでも先駆的な活動を繰り返す。オペラでの活躍も目覚ましく、新国立劇場、2007年から芸術監督を務めるびわ湖ホールなどで数多くのプロダクションに携わり、2020年3月のびわ湖ホール《神々の黄昏》無観客公演配信の視聴者数は2日間で延べ40万人以上を数えたことが話題となった。2013年から6年間、ドイツ・リューベック歌劇場で音楽総監督等の重責も担った。2022年より神奈川フィルハーモニー管弦楽団音楽監督に就任予定。指揮者デビューは、1991年のN響「若い芽のコンサート」でのこと。以後両者は定期的に共演を重ねている。

## 辻彩奈(ヴァイオリン)



© Makoto Kamaya

1997年岐阜県生まれ。3歳でヴァイオリンを始める。11歳にして名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演し、以後国内外のオーケストラと共演を重ねる。2016年、モントリオール国際音楽コンクールで優勝し、あわせて5つの特別賞(バッハ賞、バガニニ賞、カナダ人作品賞、ソナタ賞、セミファイナル・ベストリサイタル賞)を受賞。室内楽にも熱心で、12歳での初リサイタル以来、宗次ホール、サラマンカホール、紀尾井ホール、ザ・シンフォニーホールにてリサイタルを行う。2017年「岐阜県芸術文化奨励」、2018年「第28回出光音楽賞」を受賞。東京音楽大学を卒業。2019年には、ジョナサン・ノット指揮スイス・ロマンド管弦楽団とジュネーヴおよび日本にて共演を果たす。現在、フランスと日本を拠点に活動を行っている。ヴァイオリンを小林健次、矢口十詩子、中澤きみ子、小栗まち絵、原田幸一郎、レジス・パスキエの各氏に師事。N響との初共演は、2018年10月のさいたま市と新潟市での公演。今回で2度目の共演となる。使用楽器は、NPO法人イェロー・エンジェルより貸与されている1748年製ガダニニ。

### Program Notes | 安川智子

近代フランスの音楽作品につけられた「タイトル」の背後には、さまざまな物語が隠れている。音楽が描く世界とタイトルが含む物語が交錯し、豊かな感情で彩られる。20歳の差で生まれたエルネスト・ショーン(1855~1899)とモーリス・ラヴェル(1875~1937)の音楽からは、二世代にわたるフランス音楽の諸相が鮮明に浮かびあがる。

### ラヴェル

## 組曲「クープランの墓」

1914年8月、第1次世界大戦の回避を願っていたローマ教皇ピウス10世が逝去した。同年10月1日にラヴェルはロラン・マニュエルに宛てた手紙でこう記している。「フランス風組曲を書いています。いえ、ラ・マルセイエーズはありません。フォルラーヌとジークは入れるつもりですが、タンゴはありません」。

当時パリで大流行していたタンゴを、道徳上の理由で教会が問題視し、代わりに17世紀ヴェネチアで踊られていたフォルラーヌが「教皇(推奨)のダンス」として広まった、という「フォルラーヌ」についての研究記事が、1914年の『ルヴェ・ミュージカルS.I.M.』誌に掲載されている。18世紀フランスの宮廷作曲家フランソワ・クープラン作曲《王宮の合奏曲集》から「フォルラーヌ」の楽譜もつけられていた。これらが《クープランの墓》の着想源のひとつであると考えられている。

フランス語の「tombeau(墓)」には、故人を追悼する器楽曲という意味がある。大戦中、全6曲のピアノ独奏曲として作曲され、各曲が戦死した友人たちに捧げられた。管弦楽編曲は、原曲からフーガとトッカータを除き、〈前奏曲〉(快活に)、〈フォルラーヌ〉(アレグレット)、〈メヌエット〉(アレグロ・モデラート)、〈リゴードン〉(きわめて快活に)の組曲として完成した。ホ短調とはいえ曖昧な調性感の2曲に始まり、ト長調の優雅なメヌエットを経て、南仏起源の舞曲リゴードンでは快活なハ長調へと至る。3つの舞曲は1920年11月にバレエ・スエドワによってバレエ化され、大好評を博した。

作曲年代	[原曲]1914~1917年 [管弦楽編曲]1919年
初演	[管弦楽編曲版]1920年2月28日、ルネ・バトン指揮、パドルー管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット1、ハーブ1、弦楽

## ショーソン

### 詩曲 作品25

《詩曲 Poème》は、ヴァイオリン独奏を伴う一種の交響詩である。ショーソンの師であるセザール・フランクと同郷ベルギーのヴァイオリニスト、ウジェーヌ・イザイ(1858~1931)からヴァイオリン協奏曲を依頼されたショーソンは、協奏曲という伝統的なジャンルにとらわれることなく、自由な形式の作品を志向した。当初、個人的にも知り合いであったツルゲーネフの小説『勝ち誇る愛の歌』(1881)に着想を得たタイトルであったが、それが交響詩(Poème symphonique)となり、最終的に「Poème」となった。

全体は一続きの自由な構成であるが、ソナタ形式の型も隠れている。冒頭はリヒャルト・ワーグナーからの影響が明らかな、暗い和声で幕を開ける(レント・エ・ミステリオーソ)。その後ヴァイオリンが無伴奏で第1主題を奏で、弦楽がそれを引き継ぐ。すぐにヴァイオリン独奏の見せ場となり、第1のクライマックス(アニマート)、そして第2主題部へと導かれていく。独奏ヴァイオリンが奏でる旋律は、イザイがもつ孤高の静けさと、ショーソンが紡ぐ官能的美が混ざり合い、この上ない魅力を放つ。情熱的な展開部ののち、第1主題部(ポーコ・レント)と第2主題部(アレグロ)が再現する。再び激しい展開の後、コーダ(トランクイロ)を経て静かに終わる。フランク、ドビュッシーらの傑作が渦巻く「ワーグナー後」のフランス音楽において、ショーソンの存在は欠かすことができない。

作曲年代	1896年
初演	1896年12月27日、ウジェーヌ・イザイ(ヴァイオリン)、ギー・ロバルツ(指揮)、ナンシー音楽院にて [パリ初演]1897年4月4日、イザイ(ヴァイオリン)、コロヌ管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、ハーブ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

ラヴェル

## チガーヌ

《チガーヌ》は、ハンガリー出身の女性ヴァイオリニスト、イエリー・ダラーニ(1893～1966)を想定して書かれたヴァイオリンとピアノ(またはピアノに装置をつけた、リュートのような音色の出せる新楽器、リュエアル)のための作品で、1924年4月26日にロンドンで初演されたのち、すぐに管弦楽伴奏版に編曲された。19世紀のヴィルトゥオーゾ、ヨーゼフ・ヨアヒムの血を引くダラーニのために技巧で魅せることを意識した作品である。

「チガーヌ」はフランス語でロマの人々を意味するが、単数形ではロマのヴァイオリン弾きの意味になる。前半では、重音やフラジレットを多用した即興的で技巧的なヴァイオリン独奏が、幻想的な世界へと誘い込む。独奏ヴァイオリンの重音トレモロに、サスペンデッド・シンバルのトリルとハーブ、弱音器つきの弦楽器が加わることで前衛的な響きが生じ、ハンガリー舞曲風の後半部へと見事な移行を果たす。ラヴェルはダラーニの演奏や、リストやパガニーニの楽譜を研究したが、後半部の本物らしさには、当時パリで活動していたロマの楽団の音楽も一役買っていたであろう。

作曲年代	[原曲]1924年 [管弦楽伴奏版編曲]1924年7月
初演	[管弦楽伴奏版]1924年10月19日アムステルダム、サミュエル・ドゥシェケン独奏、ピエール・モントゥー指揮、コンセルトヘボウ管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット1、サスペンデッド・シンバル、トライアングル、グロッケンシュピール、ハーブ1、チェレスタ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

ラヴェル

## 亡き王女のためのパヴァーヌ

「パヴァーヌ」は16世紀ヨーロッパに起源をもつ宮廷舞踏である。「亡き王女(Infante défunte)」とタイトルにあるが、実在の人物の追悼歌ではなく、韻を踏んだフランス語の響きによって、タイトルにも優雅さが浸透している。原曲は1899年に作曲されたラヴェルの学生時代のピアノ作品であり、有名なサロンの主宰者ポリニャック大公妃に献呈された。ラヴェルは師であるフォーレを介して彼女に紹介されたが、ポリニャック大公妃による数々の作曲家への作品依頼は、この時代のフランス音楽を一層豊かにした。

約10年後に行われた管弦楽化は、最初のバレエ作品となる《マ・メール・ロワ》に先立つもので、すでに熟練を感じさせる。冒頭の主題を奏するホルンの音色と、ト長調の素朴な旋律が、典雅さに温かみを与えている。弦楽器のピチカートはリュートのつまびきを思わせ、ハーブが幻想と高貴さを加える。同じ主題が異なるエピソードを挟んで3度繰り返される明快な Rond 形式であり、個々の楽器の音色が際立つ構成となっている。

作曲年代	[原曲]1899年 [管弦楽編曲]1910年
初演	[原曲]1902年4月5日パリ、プレイエル・ホール(国民音楽協会)、リカルド・ビニェス(ピアノ) [管弦楽編曲版]1911年2月27日マンチェスター、ヘンリー・J・ウッド指揮、ジェントルメンズ・コンサーツ・イン・マンチェスター
楽器編成	フルート2、オーボエ1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、ハープ1、弦楽

## ラヴェル

## バレエ音楽「マ・メール・ロワ」(全曲)

原曲は全5曲からなる子供のためのピアノ連弾作品である。ラヴェルの友人、ゴデブスキ夫妻の子供たち、ミミとジャンのために作曲された。タイトルはシャルル・ペローの童話集『マ・メール・ロワ(マザー・グース)の物語』から借用し、ここに含まれる「眠りの森の美女」と「一寸法師」の他、別の童話から2つの物語を加えている。

テアトル・デ・ザール(パリ17区にある現在のエベルト劇場)の支配人、ジャック・ルーシェにこの連弾作品のバレエ化を依頼されたラヴェルは、〈前奏曲〉と紡ぎ車の踊りの場面、そして間奏を新たに加え、全体を眠りの森の美女を基底とする一続きのストーリーとした。〈前奏曲〉は妖精の園を描く。フロリーヌ王女がここで遊んでいると、ある老女の紡ぎ車の紡錘<sup>ぼうすい</sup>で指を突いてしまう(第1場〈紡ぎ車の踊りと情景〉)。弦楽器のピチカート下行とハープのグリッサンドを合図にフロリーヌは永遠の眠りにつく。第2場〈眠りの森の美女のパヴァーヌ〉で、衣を脱いだ老女は、実は美しい妖精ベニーニュであった。ここから王女に語り聞かせる3つの物語の場面となる。第3場〈美女と野獣の対話〉では美女が野獣の愛を受け入れると(全休止)、野獣から王子への変身が管弦楽で表現される。第4場〈一寸法師〉では鳥の声がリアルに描写され、第5場〈パゴダの女王レド口ネット〉では中国製の首ふり人形たちが、機械的な動きでクルミやアーモンドの殻でできた楽器を奏でる。終曲〈妖精の園〉では王子が登場する。王女が夢から覚めると、弱音の弦楽合奏から次第に楽器と音量が増していき、最後はハープとチェレスタのグリッサンドが加わって、華やかに幕が閉じられる。

作曲年代	[ピアノ連弾版]1908~1910年 [管弦楽版・バレエ版]1911年
初演	[ピアノ連弾版]1910年4月20日、パリ、サル・ガヴオー(独立音楽協会) [バレエ版]1912年1月28日、パリ、テアトル・デ・ザール、ガブリエル・グロヴレーズ指揮
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ1(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2(コントラファゴット1)、ホルン2、ティンパニ1、シンバル、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、大太鼓、トライアングル、タムタム、シロフォン、ハープ1、チェレスタ1、ジュドウ・タンブル1、弦楽

## 安川智子 | Tomoko Yasukawa

北里大学一般教育部専任講師。おもな研究領域は19世紀から20世紀初頭のフランス音楽および音楽理論史。



1/27 **水** 7:00pm  
1/28 **木** 7:00pm

# サントリーホール

## Suntory Hall

January

27(Wed) 7:00pm

28(Thu) 7:00pm

指揮／チェンバロ\*

**鈴木優人**

Masato Suzuki, conductor/ harpsichord\*

コンサートマスター

**篠崎史紀**

Fuminori Maro Shinozaki, concertmaster

### バッハ

ブランデンブルク協奏曲 第1番 ヘ長調

**BWV1046\*** [20']

I (速度指定なし)

II アダージョ

III アレグロ

IV メヌエット

— 休憩 (20分) —

### ベートーヴェン

序曲「コリオラン」作品62 [8']

### ブラームス

交響曲 第1番 ハ短調 作品68 [45']

I ウン・ポーコ・ソステヌートーアレグロ

II アンダンテ・ソステヌート

III ウン・ポーコ・アレグレット・エ・グラチオーソ

IV アダージョーアレグロ・ノン・トロッポ、  
マ・コン・ブリオ

### Johann Sebastian Bach (1685–1750)

Brandenburg Concerto No. 1

**F Major BWV1046\***

I [No Tempo Indication]

II Adagio

III Allegro

IV Menuet

— intermission (20 minutes) —

### Ludwig van Beethoven (1770–1827)

“Coriolan,” overture Op. 62

### Johannes Brahms (1833–1897)

Symphony No. 1 C Minor Op. 68

I Un poco sostenuto – Allegro

II Andante sostenuto

III Un poco allegretto e grazioso

IV Adagio – Allegro non troppo, ma con brio

## Artist Profile

## 鈴木優人 (指揮)



指揮や鍵盤楽器の演奏のみならず、作曲、企画プロデュース、舞台演出など、さまざまな分野で活躍する音楽家。1981年、オランダのハーグに生まれる。東京藝術大学作曲科および同大学院器楽専攻古典分野を経て、ハーグ王立音楽院修士課程オルガン科を首席で、同音楽院即興演奏科を栄誉賞つきで修了。2005年にはアンサンブル・ジェネシスを結成し、ピリオド楽器でバロックから現代音楽まで

幅広いプログラムに取り組む。さらに指揮者として日本の主な演奏団体と共演を重ね、2018年バッハ・コレギウム・ジャパンの首席指揮者に、2020年読売日本交響楽団の指揮者／クリエイティブ・パートナーに就任した。バロック・オペラの上演にも力を注ぎ、2017年にモンテヴェルディ《ポッペアの戴冠》、2020年秋にヘンデル《リナルド》を指揮した。N響とは、2018年11月に、コーブランド《オルガンと管弦楽のための交響曲》のソリストとして初共演。翌2019年5月にサン・サーンス《交響曲第3番》でもオルガン独奏を務めたのち、同年12月の定期公演で指揮者としてN響デビュー。メンデルスゾーン《交響曲第5番「宗教改革」》をはじめ、ユダヤ教とキリスト教にまつわる作品で固めた意欲的なプログラミングと、その瑞々しい演奏が、大きな話題となった。

## Program Notes | 岡田暁生

クラシック音楽の王道中の王道「3B＝バッハ／ベートーヴェン／ブラームス」プログラム。演目が多様化している今日からは想像もつかないが、昭和のころの日本のオーケストラでは3Bが圧倒的なプレゼンスを誇っていた。ヒューマンイズムの理想を歌う重厚なるドイツ・クラシック——今や懐メロと思う向きもあろうが、こんな時代だからこそ、もう一度この高き理念に耳を傾けたい。

## バッハ

## ブランデンブルク協奏曲 第1番 へ長調 BWV1046

「協奏曲」はバロック音楽の根本原理のひとつだ。フォルテとピアノ、長調と短調、トゥッティとソロ、弦と管、歌とオーケストラ——あらゆるコントラストを利用し尽くす。当時の協奏曲の本流は合奏協奏曲、つまり複数のソリスト群がトゥッティと対峙するコンチェルト・グロッソだった。代表はヴィヴァルディで、もちろんヨハン・セバスティアン・バッハ(1685～1750)も多大な影響を受けた。オペラと同じく協奏曲も、バロックにおける音楽の国イタリアからの輸入品だったわけだ。だがバッハの合奏協奏曲には、いかにもドイツ人らしい「重厚化」が見られる。ヴィヴァルディと違ってシンフォニックなのだ。全部で6曲ある《ブランデンブルク協奏曲》の中でも、この《第1番》はとりわけそうである。規模も一番大きく、

何より楽章が4つもあるのはこれだけである。

がっちりした構成の第1楽章と第3楽章には、すでに古典派以後の動機展開の手法が先取りされているといっていいたろう。ヴィヴァルディではソロはトゥッティと違うメロディを弾く。サウンドの点でも強弱がはっきり区別されている。音楽の構成が建築的なのである。対するにバッハでは、両者の間に密接な動機関連の網目が作り出され、響きも継ぎ目が分からないほど溶け合わされる。本当に交響曲のように聞こえる。もちろん古典派以後との違いも大きい。第2楽章は器楽によるオペラ・アリアだし、何よりフィナーレの第4楽章が舞曲である。第1楽章が王様入場の壮麗な序曲、第2楽章がオペラのアリア、第3楽章で王様退場、それからダンスの時間になってお開き——こんな宮廷生活を想像したくなったりもする。

作曲年代	1721年に6曲まとめてブランデンブルク辺境伯に献呈されたのでこの名がある。成立はケーテン時代(1717~1723)
初演	不明
楽器編成	オーボエ3、ファゴット1、ホルン2、弦楽、通奏低音(チェロ、コントラバス、チェンバロ)

## ベートーヴェン

### 序曲「コリオラン」作品62

現在のオーケストラ・コンサートでは前半に序曲と協奏曲、後半にメインの交響曲を持ってるのが定型だが、このスタンダードは19世紀に確立された。そしてメンデルスゾーン《フィンガルの洞窟》やブラームスの《悲劇的序曲》など、多くの演奏会序曲が作られた。コンサートのオープニング用だ。《序曲「コリオラン」》はその嚆矢である。実際《コリオラン》は、《ピアノ協奏曲第4番》および《交響曲第4番》と並べて初演された。創作のきっかけとなった戯曲『コリオラヌス』は、ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770~1827)の友人だった詩人コリンによるもので、最後は殺される古代ローマの英雄を描く。主人公の好戦的な性格と不安(第1主題)、献身的な妻(第2主題)、そして死など、物語性は明らかだ。ベートーヴェンといえば、「闇から光へ」の構図が定番だが、《コリオラン》は終始闇に閉ざされている点、そして息絶える主人公をあらわすピアノシモの終止の点で特異である。また主人公の宿命を象徴する冒頭の3つの和音連打では、減七和音が立て続けに響くが、これは当時としては桁外れに大胆な不協和音と聴こえただろう。

作曲年代	1807年
初演	1807年3月、ロブコヴィッツ邸で
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

## ブラームス

## 交響曲 第1番 ハ短調 作品68

ベートーヴェン以後の作曲家にとって、「交響曲を書く」とはベートーヴェンの後継者として名乗りを上げることを意味した。ヨハネス・ブラームス(1833~1897)がシューマンに激賞されたのは1853年。この時シューマンは彼のピアノ・ソナタ(第1番)を「覆いをかけられたシンフォニー」と呼んだ。早くも交響曲作曲家として囑望されていたわけだ。大変なプレッシャーだっただろう。現在の《交響曲第1番》の最初の構想は1862年といわれるが、完成したのは1876年である。

ブラームスが目指したのがベートーヴェンの遺産の継承であったことは明らかである。ブラームスも《第2番》以後の交響曲では「自分自身の世界」を、いってみればベートーヴェンのプレッシャーなしに自由に描くようになる。《第2番》は田園的なものを、《第3番》はメランコリーを、《第4番》は死を主題としているとあっていいだろう。しかし《第1番》における彼はベートーヴェンの「闇から光へ」の交響曲図式を我が物にしようと格闘した。第1楽章の重苦しい苦悩から第4楽章の有名なホルン・ソロによる解放が、彼なりの答えだ。その意味でこの作品を「ベートーヴェンの第十交響曲」と呼んだハンス・フォン・ビューローの見立ては正しい。「闇から光へ」の全体構図は明らかだし、調性は《運命》と同じハ短調、第1楽章の展開部では何度も運命のモチーフが響く。終楽章の主題が《第九》そっくりであることも周知だ。だがブラームスの《第1交響曲》は、精神の点でベートーヴェンと何かが違う。

ベートーヴェンが《運命》や《第九》で描いた集団的熱狂を、ブラームスの交響曲は持ち合わせていない。それはもっと個人主義的でブルジョワ的ですからある。第1楽章や第4楽章の出だしは芸術家の内面の苦悩というべきであろうし、第2楽章と第3楽章の田園的性格を自然への逃避(例えば避暑の別荘での夏の一日)と解釈することも許されよう。また第4楽章の有名なホルンが表象するのはアルプス以外の何であろうか。すでに1868年にブラームスは、クララ・シューマンへの誕生日祝いのカードにこのテーマを書きつけているが、そこには「山の頂高く、谷底深く、あなたに何千回もの挨拶を送ります」というメッセージが添えられている。

作曲年代	完成は1876年だが構想は1862年にさかのぼる
初演	1876年11月4日、カールスルーエ、オットー・デッツォフ指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

## 岡田暁生 | Akeo Okada

京都大学人文科学研究所教授。専門は19世紀から20世紀初頭の西洋音楽。

# N響百年史

## 第十六回—山田耕筰、ハルビンへ旅立つ

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、N響の歴史を時代背景とともに、独自の視点からひもときます——。東京シンフォニー・オーケストラの登場に焦る山田耕筰。中国・ハルビンのロシア人音楽家たちに目をつけます。

### 山田耕筰、起死回生の一手とは

追い詰められたときの山田耕筰ほど強いものはない。彼の逆転生き残りの発想力と実行力はやはりいつも飛びぬけていた。

第1次世界大戦下の東京でせっかく率いた東京フィルハーモニー会管弦楽部を1916(大正5)年にたちまち潰してしまい尾羽打ち枯らしたと思ったら、1918年から翌年にかけて2度にわたってニューヨークのカーネギー・ホールでのコンサートを大成功させ、たちまち東京楽壇での覇権を取り戻した。しかも、それは以前触れたように日本の対米外交姿勢と結びついていた。日本は、中国での利権の問題やアメリカにおける日系移民排斥問題で、アメリカとの関係をぎくしゃくさせていた。また、今回後述するシベリア出兵問題では、日本はアメリカとの連携を深めたかった。寺内正毅内閣の外務大臣、本野一郎は、シベリア出兵強硬論者であり、日米親善ムードを文化芸術の交流まで含めてなんとか盛り上げたかった。だから本野は山田の後ろ盾になり、山田はその波に乗って、外務省や在米日本人社会の強い支持を得られたからこそ、ニューヨークで上手に立ち回れた。

1923(大正12)年にも、山田はほとんど同じ手を使おうとした。帝国ホテルを経営する大倉財閥の大倉喜七郎が中心となり、東京や横浜に住む白系ロシア人を中心にした手練れの西洋人音楽家たちに日本人のメンバーを加えて、東京シンフォニー・オーケストラ(東京シンフォニー管弦団とも)を誕生させ、その活動は軌道に乗りそうに思われた。山田の預かり知らぬ話である。山田が東京フィルハーモニー会管弦楽部を潰したあと、アメリカでの勲章を手にし

でも、東京でのオーケストラ運動をうまく始め直せないうえに、東京シンフォニー・オーケストラが登場してしまった。手をこまねいていいのかわからない。そのとき山田は悶いた。目には目を、歯には歯を、ロシア人にはロシア人を！しかも今度はこの国の対ソ外交と相乗させて！大政治家、後藤新平のお墨付きをもらって！

## 新興社会主義国ソ連と日本

1923(大正12)年2月1日、東京駅にソビエト連邦の大物外交官が降り立った。アドルフ・ヨッフエという。特にトロツキーと近く、ロシア社会民主労働党のボリシェヴィキ派の幹部として、1917年からのロシア革命に参加し、一時はボリシェヴィキ派の中央委員だった。ベルリンやウィーンで長く暮らしたせいもあって語学に堪能であり、外交で活躍して、1918年の第1次世界大戦終結期にはベルリンにいたが、ドイツ革命を煽動しているとしてドイツから退去させられた。その後、中国や日本の担当になる。

日本とソ連の関係はどうだったか。1923年の段階ではまだ国交はなかった。もちろんソ連はロシア革命によってロシア帝国を倒してできた社会主義国家である。ロシア帝国は、1914(大正3)年から1918年まで続いた第1次世界大戦においては、日本と同じくイギリスやフランスの側で、ドイツ帝国やハプスブルク君主国やオスマン帝国と戦っていた。ところがロシア帝国は大戦争のあまりの負担で社会を混乱させ、民衆の不満が高まり、そこを好機とばかりにロシア社会民主労働党が暴力革命を仕掛けたら、帝政は倒壊。新たにロシアに成立した革命政府は、第1次世界大戦からの離

脱を宣言するに至った。ドイツなどと講和して、国内の革命に集中した。

大日本帝国は驚倒した。世界大戦をともに戦う国が急にひとついなくなることよりも、社会主義革命で帝国が覆り、皇帝が命を奪われる過程に慄き怯えた。日本の政府や軍部は明治時代からまさにそのことを警戒し続けてきた。天皇中心の国家体制に挑戦する勢力は何としても排除されねばならない。たとえば1911(明治44)年にマルクスに傾倒した社会主義者の幸徳秋水らを、天皇への反逆の罪、すなわち大逆罪によって死刑にしたのはそのあらわれだ。社会主義者を弾圧する帝国として、大日本帝国が模範としていたひとつはロシア帝国。ところがそれが潰れてしまった。せめて、広大なロシア全土がそのまま社会主義化するのを食い止めたい。ロシアの反社会主義勢力にシベリアで新国家を樹立させるのがよい。そうやって、新しい社会主義国ソ連とアジアのあいだに、大きな緩衝地帯を作りたい。ソ連の影響力が日本に浸透しやすくなれば、何が起きるか。大日本帝国もまたロシア帝国同様に、貧しい労働者階級を数多く抱え、資本主義の矛盾に直面している国家のひとつなのだ。天皇も倒されかねないではないか。日本がアメリカと協調して、1918(大正7)年夏にシベリアへ出兵した所以である。

だが、日本の都合のよいようには事は運ばなかった。ロシアの反社会主義勢力は新生のソ連(当時の日本では労働露西亜とよく呼称された)に対抗できるほどの勢いを得なかった。1920(大正9)年には、ニコラエフスクという、ロシアの沿海州のアムール川の河口に位置し、間宮海峡を挟んで樺太島(ロシアの呼称ではサハリン島)の最北部と向き合う港町(日本ではニコラエフスクのニを取って尼港と称された)で、革命勢力に

つながるパルチザンによって、日本軍守備隊、日本領事館員、日本人在留民、合わせて約700人が<sup>ぎやくさつ</sup>虐殺される事件も発生した。日露戦争の結果、ポーツマス条約によって、日本はカムチャッカ半島や沿海州での漁業権をロシアから獲得しており、それだからニコラエフスクに日本人の領事館もあれば貿易商や水産業者も住んでいたのだが、ロシア革命の混乱のなか、悲劇的な結末を迎えた。尼港事件と呼ばれる。

この事件に象徴されるように、日本はシベリアに親日反共政権を作り上げるといふ当初の目論見を果たせないどころか、日本にほど近い沿海州の既得権益すら守れず、全ロシアのソ連化に歯止めをかけられる状況ではなくなった。シベリア出兵は失敗だった。もはやソ連を認めざるを得ない。

でも、日本にも革命を波及させようという野心を強く持っているのかもしれない社会主義の大国と、日本は平常心で交際してゆけるだろうか。尼港事件は日本人を大いに怒らせ怖がらせている。パルチザンの暴挙はソ連の政権の責任だから謝罪と賠償を日本に厚くなすべきというのが、事件以来の世論だった。また、日本は尼港事件のあと、日本の権益を保全するための措置として北樺太に軍隊を送って、その地を実効支配していた。日露戦争の結果、南樺太は日本領になっていたが、北樺太はロシア領のままであり、その領土はソ連に継承されている。日本は尼港事件の完全解決まで北樺太から兵を<sup>ひ</sup>退けないと強気なのだが、ソ連から見れば、日本の行為はきわめて不当な侵略に他ならない。つまり、尼港事件と、そもそもニコラエフスクに多数の日本人が暮らしていた最大の理由である北洋での日本の漁業権と、北樺太問題の3点を解決しなくて

は、日ソ双方は国交を開くことができない。しかし外交交渉は遅々として進まなかった。日本はソ連が尼港事件の善意ある後始末を確約して魚も安全に獲らせてくれなくては北樺太から兵を退けないと言ひ、ソ連は北樺太からの日本軍撤退が先決と言う。打開の糸口がなかなか見つからない。

## 一流のオーケストラは中国ハルビンにあり

そんななか、新しい動きを見せ始めたのはソ連のほうである。1922(大正11)年、ソ連で対東アジア外交をしきるヨッフエは対中交渉に意欲を示した。中国では1911(明治44)年から<sup>しんがい</sup>辛亥革命が進行し、1912(大正元)年には孫文を指導者とする中華民国が成立していた。中華民国にはソ連の支援する中国共産党も1921年にできたばかりだ。孫文の率いる国民党には、共産党を許容する政治的な広さもあるようで、ソ連としては大いに歓迎できる。日本がソ連との言わば冷戦を続ける気なら、ソ連は東アジアで日本よりも中華民国を外交上の最重要国とすべきではないか。

しかもソ連には中国領内でおのれの足場ができる領域がなくもない。北満州のハルビンを中心とする東清鉄道の縄張りである。清朝時代の中国に圧力をかけて満洲の植民地化を目指し、その開発に尽くしていたのはロシア帝国。日露戦争の結果、ロシアは南満洲の権益を手放さざるを得なくなったが、北満州では多くを保っていた。ロシア革命後、国内の混乱を避けて、あるいは社会主義を恐れて、特にお金持ちのロシア人たちは財産を持って国外に逃避し、欧米にも日本にも上海などにも逃れた。お金持ちでなくても、楽器を弾けば言葉に

左右されずに仕事のできる音楽家も逃げ出しやすかった。そのひとつの果実として東京に産み落とされたのが、白系ロシア人主体の東京シンフォニー・オーケストラともいえるだろう。だが、みんながみんな、遠くまで逃げていたのではなかった。金持ちも音楽家も含め、多くのロシア人がたまったのは、ロシア帝国時代のうちに、ロシアの敷設した東清鉄道の拠点として大きな発展を遂げた北満州の植民都市、ハルビンである。中国のエリアにあるロシア人主体の大都市だ。街の大体は日清戦争と日露戦争の戦間期に形成されたといつてよい。ハルビンを基幹駅とする東清鉄道は、北はシベリア鉄道と、南は南満州鉄道とつながっている。革命の国からとにかく出たいロシア人が、特にシベリア経由で逃げる場合に最も手近で落ち着きやすい都市。まるで祖国のようで、しかし革命権力が支配しているわけではない場所、それがハルビンなのであった。かくして1920(大正9)年前後のハルビンは、ロシア人によるロシア人のための一流のオペラ座も一流のオーケストラも存在する、けれどソ連に属さぬ大都市として不思議な活況を示していた。

はて、ではこの時代のハルビンの権力は誰が握っていたのか。東清鉄道は中国の領土を走るとはいえ、鉄道とそれに関連する諸権利は、敷設したロシア帝国に帰属していた。ということは、ロシアの継承国であるソ連が引き継いでもよかった。ところがソ連は、革命直後に国外のことまでかまっていられないと、東清鉄道の権利を放棄し、中華民国に譲渡してしまった。したがってソ連はもはや直接ハルビンに口出しできないのだが、建国途上の中華民国の支配も十分に及ばない。中華民国に統合され切らず、満州に割拠する諸軍閥も国際都市ハルビンで勝手をやるわけにはゆかない。

あたかも、街にたまったロシア人たちの自治都市のような様相を呈している。日本の戦国時代の堺のようなものか。だが、ソ連はその後、思い直していた。革命騒ぎで富裕なロシア人がたくさん逃げている都市だ。彼らをあらためて穏便にソ連に囲い直すことができれば国益にかなう。東清鉄道の権利を保持しながら中華民国と貿易できればソ連も潤う。何よりも中ソが中国共産党を介して親善を深めれば、ソ連は東方についての心配事を減らせる。

ヨッフエは1922(大正11)年、北京を訪問した。それから上海にも出向いた。孫文と会談し、国交を開こうとした。日本が尼港事件と北樺太撤兵問題のことに頑なで、日ソが1ミリも動かないなら、そうするしかない。

日本抜きで中ソ関係が急速に進展するかも？ この状況に危機感を抱いた日本の大物政治家がいた。後藤新平である。日露戦争後、ロシアから日本に譲渡された南満州鉄道の初代総裁となり、シベリア出兵のときは寺内内閣の内務大臣も外務大臣も務め、日露、日ソの歴史的関係も、ハルビンの意味合いも知り尽くしている。そんな後藤は1920(大正9)年から東京市長だった。要職だけれど外交をやる立場ではない。だが、尼港や北樺太や社会主義の脅威のことで日本政府はソ連に対してうまくチャンネルを開けないでいる。ならばロシア通の後藤の出番ではないのか。後藤は中国で孫文と交渉中のヨッフエに来日を請うた。そうしたらヨッフエは本当に来てしまった。上海から船で長崎へ、あとは鉄道で東京へ。そして後藤は彼と尼港事件や北樺太問題の解決交渉を始めた。時の加藤友三郎内閣も外務省も差し置いて、あくまで一民間人として。大風呂敷と綽名された後藤新平の面目躍如である。

このとき後藤は東京市助役だった永田秀



次郎じろうにこう語ったという。「欧米むやみが無暗むあんと露国ろこくを怖おそがって躊躇ちゆうちゆうして居る時が最も良い機会である、日本は露国の隣国とは隣国である、一日も早く通商するのは双方の利益である」。さらにこうも言った。「露国と交通すれば我国わがこくが赤化せきか〔社会主義化〕するなどといふのは全く膽玉きもつたまの小さな話である、米国と交通して共和国にならないならば露国と交通して赤化しないのは明白なことだ」。

だが、ヨッフエの来日を警戒する勢力も多かった。最大のもの内務省である。日本革命のきっかけになりうると神経をとがらせた。内務省はヨッフエに入国をやめるよう勧告し、それでもヨッフエが怯ひるまず東京に来ると、後藤とヨッフエの警備をわざとおごなりにした。当時の日本では警察は内務省の管轄かんかつかつ。後藤の麻布の私邸は反社会主義者に二度も襲撃され、家財は破壊され、家族は負傷した。

けれど後藤は怯おそまない。世間も次第に後藤の味方を始めた。1918(大正7)年に第1次世界大戦が終わり、戦争特需は去った。その後に来たのは戦後不況。行き詰まった経済は新市場を求めている。北満州やソ連は有望だ。ソ連と国交を開かねば何も始まらない。イデオロギーの感染を心配するよりも経済を回せ！ 政府も後藤の民間外交に乗り始めた。

そこにすかさず同調したのが山田耕筈である。目の上のたんこぶ、東京シンフォニー・オーケストラの声望おとしを貶める究極の一手を思いついた。ハルビンで東清鉄道の経営する、メン

バーはロシア人ばかりの一流の交響楽団を、日本に招聘しやうへいすればよい。帝政ロシア時代のモスクワやサンクトペテルブルクで弾いていた楽士そらが揃っている。海外の一級のオーケストラの史上初の来日にもなる。

東京シンフォニー・オーケストラに参加しているロシア人楽士にも一流が何人もいる。だが、日本人と外国人の混成チームだ。ハルビンの常設のロシア人交響楽団には敵かみうまい。とはいえロシア革命後のハルビンからロシア人の大集団を入国させるとなれば、国家の許しを普段なら容易には得られまいが、後藤とヨッフエの交渉で国論が盛り上がる今なら可能だ。そういうときの山田は本当に上手い。後藤と気脈を通じ、支持を得た。あとはオーケストラを東京に連れてくればよい。さすが山田耕筈！

ついに日本人に本物を聴かせてくれた、次はきつと東京シンフォニー・オーケストラ以上の団体を帝都に作ってくれるだろうと、山田人気は高まるはず——。山田はそうやってオーケストラ運動の主役の座を取り戻そうとした。

1923(大正12)年夏、山田はハルビンに旅立つ。そのとき関東大震災が迫っていた。

#### 文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』ほか著書多数。

#### 次回予告

一流のロシア人楽士によるオーケストラを招聘して、いよいよ山田耕筈肝いりの「日露交歓交響管弦楽演奏会」が始まります。

# NHK交響楽団

首席指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：ライナー・キュッヒル、白井 圭

## 第1ヴァイオリン

青木 調  
宇根京子  
大鹿由希  
倉富亮太  
後藤 康  
小林玉紀  
高井敏弘  
猶井悠樹  
中村弓子  
降旗貴雄  
○松田拓之  
宮川奈々  
○森田昌弘  
○山岸 努  
□横島礼理  
○横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

◎大林修子  
◎大宮臨太郎  
木全利行  
齋藤麻衣子  
嶋田慶子  
○白井 篤  
鈴木弘一  
○田中晶子  
坪井きらら  
丹羽洋輔  
平野一彦  
船木陽子  
俣野賢仁  
○三又治彦  
宮里親弘

矢津将也  
山田慶一  
横山俊朗  
米田有花

## ヴィオラ

◎佐々木 亮  
◇川本嘉子  
小野 聡  
小島茂隆  
坂口弦太郎  
谷口真弓  
飛澤浩人  
○中村翔太郎  
○中村洋乃理  
松井直之  
#御法川雄矢  
○村松 龍  
山田雄司

## チェロ

◎辻本 玲  
◎藤森亮一  
市 寛也  
小島幸法  
三戸正秀  
中 実穂  
○西山健一  
○藤村俊介  
宮坂拓志  
村井 将  
○山内俊輔  
渡邊方子

## コントラバス

◎吉田 秀  
☆市川雅典  
☆西山真二  
稻川永示  
○岡本 潤  
今野 京  
佐川裕昭  
本間達朗  
矢内陽子

## フルート

◎甲斐雅之  
◎神田寛明  
梶川真步  
菅原 潤  
中村淳二

## オーボエ

◎青山聖樹  
◎吉村結実  
池田昭子  
坪池泉美  
和久井 仁

## クラリネット

◎伊藤 圭  
◎松本健司  
#山根孝司

## ファゴット

◎宇賀神広宣  
◎水谷上総  
佐藤由起  
菅原恵子  
森田 格

## ホルン

◎今井仁志  
◎福川伸陽  
石山直城  
勝保 泰  
木川博史  
野見山和子

## トランペット

◎菊本和昭  
◎長谷川智之  
安藤友樹  
山本英司

## トロンボーン

◎古賀 光  
◎新田幹男  
池上 亘  
栗田雅勝  
黒金寛行  
吉川武典

## テューバ

池田幸広

## ティンパニ

◎植松 透  
◎久保昌一

## 打楽器

石川達也  
黒田英実  
竹島悟史

## ハーブ

早川りさこ

## ステージ・マネージャー

徳永匡哉  
深畑一徳

## ライブラリアン

沖 あかね  
木村英代

(五十音順、◎首席、◇首席客演、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Paavo Järvi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmasters: Rainer Küchl, Kei Shirai

## 1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Masahiro Morita
- Tsumoto Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- ◎ Nobuko Obayashi
- ◎ Rintaro Omiya
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Koichi Suzuki
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Chikahiro Miyazato
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

## Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◇ Yoshiko Kawamoto
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Genaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Shotaro Nakamura
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

## Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Masahide Sannohe
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

## Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- ☆ Masanori Ichikawa
- ☆ Shinji Nishiyama
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

## Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Jun Sugawara
- Junji Nakamura

## Oboes

- ◎ Satoki Aoyama
- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

## Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

## Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

## Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- ◎ Nobuaki Fukukawa
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Kazuko Nomiya

## Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando

Eiji Yamamoto

## Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Masakatsu Kurita
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

## Tuba

Yukihiro Ikeda

## Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

## Percussion

Tatsuya Ishikawa  
Hideemi Kuroda  
Satoshi Takeshima

## Harp

Risako Hayakawa

## Stage Manager

Masaya Tokunaga  
Kazunori Fukahata

## Librarian

Akane Oki  
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ◇ Guest Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長   間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長   吉田淳一
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長   深澤祐二
株式会社 みずほ銀行	頭取   藤原弘治
公益財団法人 渋谷育英会	理事長   小丸成洋

### 特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長   Christian Wiedmann
ユナイテッド航空会社	アジア太平洋・大西洋地区営業担当副社長   Marcel Fuchs
全日本空輸株式会社	代表取締役社長   平子裕志
株式会社 松尾楽器商会	代表取締役   松尾治樹
ヤマハ株式会社	代表執行役社長   中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長   吉原大介

### 賛助会員

・ 常陸宮	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長   佐々木経世	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長   近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役   小森活美	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長   片倉正美	・ SCSK(株) 代表取締役社長執行役員 最高執行責任者 谷原 徹
・ アイシン・エイ・ダブリュ(株) 取締役社長   尾崎和久	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長   清森洋祐	・ (株)NHKアート 代表取締役社長   小野木昌史
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長   安藤正明	・ 伊東国際特許事務所 会長   伊東忠彦	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長   小泉公二
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO   小路明善	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長   浅田剛夫	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長   松原洋一
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長   高須康有	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長   鈴木幸一	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長   熊楚御堂朋子
・ 朝日信用金庫 理事長   橋本 宏	・ (株)ウイングツァー 代表取締役   福田健二	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長   山本 真
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長   高波博之	・ AGC(株) 代表取締役兼社長執行役員   平井良典	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長   安齋尚志
・ アットホーム(株) 代表取締役社長   鶴森康史		

- ・(学)NHK学園  
理事長 | 浜田泰人
- ・(株)NHK グローバルメディアサービス  
代表取締役社長 | 荒木裕志
- ・(一財)NHK サービスセンター  
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版  
代表取締役社長 | 森永公紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ  
代表取締役社長 | 大橋一三
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ  
代表取締役社長 | 谷弘聡史
- ・(株)NHK プロモーション  
代表取締役社長 | 風谷英隆
- ・(一財)NHK放送研修センター  
理事長 | 原田達也
- ・(株)エヌオーイー  
代表取締役社長 | 橋本肇
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ  
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組  
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・沖電気工業(株)  
代表取締役執行役員 | 鎌上信也
- ・小田急電鉄(株)  
取締役社長 | 星野晃司
- ・花王(株)  
代表取締役 社長執行役員  
長谷部佳宏
- ・カシオ計算機(株)  
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 押味至一
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役社長 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)  
代表取締役社長 | 中西一雄
- ・(株)関電工  
取締役社長 社長執行役員  
仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)  
取締役名誉会長 | 茂木友三郎
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 三宅国紀
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役 | 牧野和宏
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)  
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 山田晴彦
- ・グラフェンプラットフォーム(株)  
代表取締役 | 長谷川正治
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役 | 紅村 康
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 | 小林敏也
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)  
取締役社長 | 原田一之
- ・(医)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)サウンド&ミュージック クリエーション  
代表取締役 | 河合由里子
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・(株)サコ コンサルタント  
取締役 総務部長 | 大森 保
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役社長 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役社長 | 富田 稔
- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・JXTGホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 杉森 務
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)ジュビターテレコム  
代表取締役社長 | 石川雄三
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役社長 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック  
名誉院長 | 松木康夫
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)  
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・鈴木美代
- ・住友商事(株)  
代表取締役社長執行役員 CEO  
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・住友電設(株)  
取締役社長 | 坂崎全男
- ・セイコーホールディングス(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
服部真二
- ・聖徳大学  
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
取締役社長 | 喜多村樹美男

- ・ 関彰商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・ (株)セノン  
代表取締役 | 小谷野宗靖
- ・ 全国農業協同組合連合会  
経営管理委員会 会長 | 長澤 豊
- ・ 洗足学園音楽大学  
学長 | 万代晋也
- ・ (株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長 CEO | 村松俊亮
- ・ 損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 西澤敬二
- ・ 第一三共(株)  
代表取締役会長 | 中山譲治
- ・ ダイキン工業(株)  
取締役社長 | 十河政則
- ・ 大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・ 高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 | 小島和人
- ・ (株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二
- ・ (株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・ 田原 昇
- ・ 中外製薬(株)  
代表取締役会長 | 小坂達朗
- ・ (株)電通  
代表取締役 社長執行役員 | 五十嵐 博
- ・ (株)TOKAIホールディングス  
代表取締役社長 | 鶴田勝彦
- ・ 東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・ 東急(株)  
取締役社長 | 高橋和夫
- ・ (株)東急文化村  
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・ (株)東京交通会館  
取締役社長 | 八木橋孝男
- ・ 東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通
- ・ 東武鉄道(株)  
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・ 東邦音楽大学  
理事長・学長 | 三室戸東光
- ・ 桐朋学園大学  
学長 | 梅津時比古
- ・ 東邦ホールディングス(株)  
代表取締役会長CEO | 濱田矩男
- ・ (株)東北新社  
代表取締役社長 | 二宮清隆
- ・ (-財)凸版印刷三幸会  
代表理事 | 足立直樹
- ・ トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・ 内外施設工業(株)  
取締役会長 | 林 正道
- ・ 中銀グループ  
代表 | 渡辺蔵人
- ・ (株)日放ツアリスト  
代表取締役社長 | 谷本佳則
- ・ 日本ガイン(株)  
取締役社長 | 大島 卓
- ・ (株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 城本 勝
- ・ 日本通運(株)  
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・ 日本電気(株)  
代表取締役 執行役員社長  
新野 隆
- ・ 日本土地建物(株)  
代表取締役社長 | 平松哲郎
- ・ (-財)日本放送協会共済会  
理事長 | 北爪秀樹
- ・ 日本郵政(株)  
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・ (株)ニフコ  
代表取締役社長 | 山本利行
- ・ 野村ホールディングス(株)  
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・ パナソニック(株)  
代表取締役社長 | 津賀一宏
- ・ (有)パルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・ 東日本電信電話(株)  
代表取締役社長 | 井上福造
- ・ (株)日立製作所  
執行役社長 | 東原敏昭
- ・ (株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・ 福田三千男
- ・ 富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・ 富士通フロンテック(株)  
代表取締役社長 | 川上博矛
- ・ 古川建築音響研究所  
所長 | 古川宣一
- ・ (株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原慶三
- ・ (株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 井上樹彦
- ・ 公助放送文化基金  
理事長 | 濱田純一
- ・ ホクト(株)  
代表取締役 | 水野雅義
- ・ 前田工織(株)  
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・ (株)松尾楽器商会  
代表取締役 | 松尾治樹
- ・ 丸紅(株)  
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・ 溝江建設(株)  
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・ 三井住友海上火災保険(株)  
取締役社長 | 原 典之
- ・ (株)三井住友銀行  
頭取 | 高島 誠
- ・ 三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 垣内威彦
- ・ 三菱電機(株)  
執行役社長 | 杉山武史
- ・ (株)緑山スタジオン・シティア  
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・ 三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・ 三原穂積
- ・ (学)武蔵野音楽学園  
理事長 | 福井直敬
- ・ (株)明治  
代表取締役社長 | 松田克也
- ・ (株)明電舎  
取締役社長 | 三井田 健
- ・ (株)目の眼  
代表 | 櫻井 恵

・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾

・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔

・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸

・(株)山野楽器  
代表取締役社長 | 山野政彦

・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 押木正人

・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄

・米澤文彦  
・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 藤沼大輔

・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 坂元 隆

・リコージャパン(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
坂主智弘

・料亭 三長  
代表 | 高橋千善

・(株)リンレイ  
代表取締役社長 | 鈴木信也

・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 戸張誠二

・ローム(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
松本 功

・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 中野健次

(五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL: 03-5793-8120

10年、50年、100年先も、  
木材資源を持続的に活用  
していくために、ヤマハは  
新たな取り組みを  
進めています。

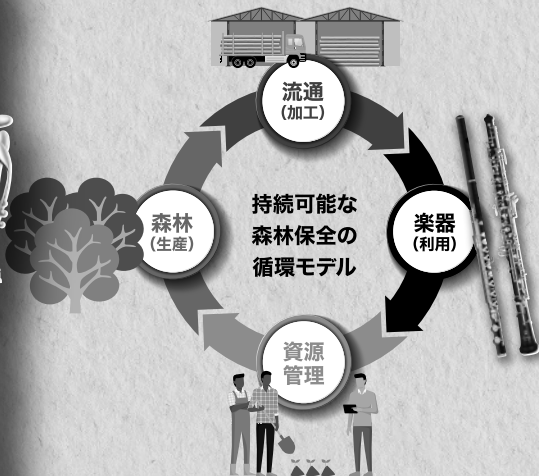


クラリネットやオーボエ、ピッコロ、木製フルートなどは「アフリカン・ブラックウッド（通称グラナディア）」という「木」からつくられています。タンザニアを主要産地とし、その独特な外観と音響的に優れた性質を他の木材で代替することは難しく、楽器業界では貴重な資源です。近年、その資源量が減少し、国際自然保護連合のレッドリストに掲載され資源の持続性が問題とされています。

アフリカ/タンザニアとヤマハ

生産地域の貧困や、林業収入の低さなどにより、グラナディアの森林管理を地域社会で自立して行うことが難しい現状となっています。ヤマハは実際に現地に足を運んで、その森や村で何が起きているかを調査し、サポートをしています。

森林管理 (適切な資源利用)	計画的な 植林	原産地コミュニティの サポート
-------------------	------------	--------------------



持続的な木材調達の実現を目指す  
「タンザニア森林保全プロジェクト」

[https://www.yamaha.com/ja/csr/feature/feature\\_04/](https://www.yamaha.com/ja/csr/feature/feature_04/)



**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS** 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です。

- ヤマハ管楽器ホームページ <https://jp.yamaha.com/winds/>
- お問い合わせ 株式会社ヤマハミュージックジャパン  
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11  
お客様コミュニケーションセンター 管弦打ご相談窓口  
ナビダイヤル：0570-013-808  
つながらない場合は053-4111-4744へおかけください。  
受付時間：月～金10:00～17:00(土曜・日曜・祝日・センター指定休日を除く)

 管弦打楽器にまつわる旬な情報をお届け  
ヤマハ・ウィンドストリーム  
(facebook) fb.me/yamahawindstream  
 [Twitter] @Yamaha\_Wind\_jp

株式会社ヤマハミュージックジャパン



## Information

首席就任 第2ヴァイオリン首席 大宮臨太郎(おおみやりんたろう) 2021年1月1日付で就任。

退団 ヴァイオリン 齋藤真知亜(さいとう まちあ) 2020年12月31日付で退団。

## 2020-21シーズン公演日程

	NHKホール(2月まで) 土6:00pm / 日3:00pm	東京芸術劇場 金7:00pm / 土2:00pm	サントリーホール 水7:00pm / 木7:00pm
20 21 02	6土 7日	12金 13土	17水 18木
04	10土 11日 6:00pm 2:00pm*	16金 17土	21水 22木
05	15土 16日 6:00pm 2:00pm*	21金 22土	26水 27木
06	5土 6日 6:00pm 2:00pm*	11金 12土	16水 17木

NHKホール改修工事のためサントリーホールに  
会場を移して行います。  
※2日目の開演時刻は午後2時となります。

# 2021-22定期公演予定(日程・指揮者)

	池袋A	B	池袋C
	東京芸術劇場 土夜/日昼	サントリーホール 水夜/木夜	東京芸術劇場 金夜/土昼
2021 09	9/25(土) 26(日) 指揮:沼尻竜典	9/15(水) 16(木) 指揮:トン・コープマン	9/10(金) 11(土) 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ
2021 10	10/16(土) 17(日) 指揮:ヘルベルト・ プロムシュテット	10/27(水) 28(木) 指揮:ヘルベルト・ プロムシュテット	10/22(金) 23(土) 指揮:ヘルベルト・ プロムシュテット
2021 11	11/13(土) 14(日) 指揮:ファビオ・ルイージ	11/24(水) 25(木) 指揮:ファビオ・ルイージ	11/18(木)* 19(金) 指揮:ファビオ・ルイージ <small>★通常土曜日昼の公演を 木曜日夜に開催します</small>
2021 12	12/4(土) 5(日) 指揮:山田和樹	12/15(水) 16(木) 指揮:ディマ・スロボデニユク	12/10(金) 11(土) 指揮:ワシリー・ペトレンコ
2022 01	1/15(土) 16(日) 指揮:原田慶太楼	1/26(水) 27(木) 指揮:トゥガン・ソヒエフ	1/21(金) 22(土) 指揮:トゥガン・ソヒエフ
2022 02	2/5(土) 6(日) 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ	2/16(水) 17(木) 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ	2/11(金) 祝 12(土) 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ
2022 04	4/9(土) 10(日) 指揮:クリストフ・ エッシェンバッハ	サントリーホールの 改修工事に伴い 公演を休止します	4/15(金) 16(土) 指揮:クリストフ・ エッシェンバッハ
2022 05	5/14(土) 15(日) 指揮:マレク・ヤノフスキ	5/25(水) 26(木) 指揮:ファビオ・ルイージ	5/20(金) 21(土) 指揮:ファビオ・ルイージ
2022 06	6/11(土) 12(日) 指揮:ステファヌ・ドゥネーヴ	6/22(水) 23(木) 指揮:鈴木優人	6/17(金) 18(土) 指揮:ステファヌ・ドゥネーヴ

※今後の状況によっては、出演者等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

## 2021-22シーズン定期公演の開催について

(A・Cプログラム) NHKホール等の改修工事に伴い、東京芸術劇場(池袋)で行います。  
(Bプログラム) サントリーホールの改修工事に伴い、2022年4月の公演を休止します。2021-22シーズンは1日目、2日目ともに8回ずつの開催となります。

- ・曲目や公演の詳細は2021年3月頃に発表する予定です。
- ・休止となった2020-21シーズン定期会員券の継続手続きをされた方には、2021年4月頃に別途ご案内をお送りします。

Iwatani

# 水素で 世界を動かせ。

時代が問う。人類は次の100年を託せるエネルギーを持っているか。

私たちに、水素がある。燃焼してもCO<sub>2</sub>を排出せず、

大きなパワーを生み、枯渇することがない

その究極のクリーンエネルギーは、すでにロケットを宇宙へ送り、  
先端産業を支え、電気を作り、車を走らせている。

世の中に必要なものは、必ず世の中の当たりまえになってゆく。

だから突き進もう。水素で、もっと社会を、時代を、世界を動かせ。

日本には、未来を変えるエネルギーがある。

水素シェア No.1<sup>※</sup>

**Iwatani**  
岩谷産業株式会社

※岩谷産業株式会社は、水素ガスの販売において国内市場シェア約70%を占めています。(2020年8月現在、自社調べ)